

# 「感じがする」が名詞につく場合の 接続形式による意味の違い

小 竹 直 子

## Difference in Meaning Based on Connection Type When “*Kanji ga Suru*” is Attached to a Noun

Naoko Kotake

### Abstract

This paper examined the difference in meaning based on connection type when “*Kanji ga Suru*” is attached to a noun. Through a corpus survey, a sentence selection test on Japanese native speakers, and example analysis, two findings emerged: First, “*Na Kanji ga Suru*” softens affirmative tones by functioning to indicate a gradual transition. For example, when we say, “*Kono Hotel Yasuyado Na Kanji ga Suru*,” we mean “This would be a rather cheap hotel” instead of “I feel this is a cheap hotel.” Hence, the sentence bears a casual tone, and this seems a popular trend, with younger people tending to use it more often than older adults. Second, “*-Da Toyuu Kanji ga Suru*” is an assertive expression, while “*φToyuu Kanji ga Suru*” indicates people’s instinctive or spontaneous feelings. For example, when we say, “*Kono Tokei Koukyuuhin Da Toyuu Kanji ga Suru*,” we mean, “this watch is more likely a premium product.” On the other hand, when we say, “*Kono Tokei Koukyuuhin Toyuu Kanji ga Suru*,” we mean, “Wow! This watch looks like a premium product, doesn’t it?” Thus, the latter is often used in exclamation contexts, especially on platforms like Twitter, where people tweet spontaneously about their views and feelings.

### 1. はじめに

「感じがする」が名詞につく場合（以下、「N+感じがする」と表記する）

の接続形式には、(1)に挙げるような形式がある<sup>1)</sup>。

- (1) a. 日本は私にとって第二の故郷の感じがします。
- b. 日本は私にとって第二の故郷だという感じがします。
- c. 日本は私にとって第二の故郷のような感じがします。

なお、本稿では、「といった」「って」「っていう」「っちゅう」などの「という」のバリエーションは、いずれも引用形式として一括りに捉え、「トイウ」で総称する。また、「みたいな」「らしい」「というような」「というふうな」などの「のような」のバリエーションは、いずれも様態形式として一括りに捉え、「ノヨウナ」で総称する。すなわち、「N+感じがする」の接続形式には、ノ接続、引用形式、様態形式の3つに大きく分けられる。

ところが、コーパスの実例を見るとすぐにわかることだが、名詞に「感じがする」が直接つく場合に、「の」ではなく「な」を介在する実例が散見される。(2)は『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)(中納言検索<sup>2)</sup>』から抽出された実例で、下線は筆者による<sup>3)</sup>。

- (2) この歌は、初代のEDです。OPがアクティブな感じなのに対して、ここでは実にしっとりとしたバラードです。サビのあたりのメロディが何となく和風な感じがして、好きです。ただ、アニメと合っているかと言われると少々疑問が。〈OY15\_19660、Yahoo!ブログ、2008年〉

「和風」の品詞が形容動詞でなく、名詞であることを念のため複数の国語辞典で確認したが、『明鏡国語辞典 第2版』(2010年刊行)、『新明解国語辞典 第7版』(2013年刊行)、『例解国語辞典 第9版』(2016年刊行)に名詞として掲載されており、形容動詞としての用例の記載はなかった。したがって、「N+感じがする」の接続形式にノ接続の他にナ接続があることが確認されたと言える。さらに、ノ接続とナ接続は単純に交替可能ではなく、前節する名詞の種類や文意によって使い分けが見られる。(1a)の「第二の故郷の感じがする」を「第二の故郷な感じがする」と言い換え

てみると、筆者の言語感覚では違和感を覚える。ノ接続とナ接続はどのように使い分けられ、どのような意味の違いがあるのか、この疑問に答える研究は管見の限り見当たらない。

また、(1b) のように「N+だ+トイウ感じがする」という接続形式は、コーパスではあまり見られず、名詞に直接引用形式がつく「N+トイウ感じがする」の形が圧倒的に多い。しかし、この場合も「だ」の有無によってどのような意味の違いが生じるのかについて明確に答える研究は管見の限りない。

そこで、本稿の研究課題を次のように定めたい。すなわち、「Nノ感じがする」と「Nナ感じがする」、及び「Nダトイウ感じがする」と「Nφトイウ感じがする」のそれぞれの使い分けと意味の違いについて明らかにすることである。それぞれ交替可能な例を1例ずつ示しておく。(3)は原文ではノ接続、(4)は原文では「φ」が使われていた。

- (3) 女将が入れてくれたお茶をひと口すすり、僕はタオルと浴衣を抱えて風呂に向かった。二階にも、一階にも客の姿はなかった。従業員の姿もなく、節電のためか廊下の照明はところどころ消してあり、いかにも侘しい安宿 {の／な} 感じがした。

〈PB49\_00389、書籍『メガネをかけた犬』文芸社、2004年〉

- (4) 「ときどきおかしいことを考えるの」アキは自分一人の思いに浸るようにつづけた。「わたしは本当に病気なのかしらって。たしかに病気なんだけど、寝ているあいだも朔ちゃんのことを考えて、いつも一緒にいるような気がするから、あまり病気 {φ／だ} って感じがしないの」

〈OB6X\_00067、書籍『世界の中心で、愛をさけぶ』小学館、2001年〉

次節ではまず、「感じがする」の前接要素のコーパス調査を行なった、藏本(2016)と、通時的分析を加えた、藏本(2018)について概観する。その上で、本稿の研究課題と関連する問題を扱った「N+ナ+N」に関する

る先行研究と「ダ形」と「 $\phi$ （ゼロ）形」の意味の違いを扱った先行研究を検討しながら、本研究の問題へアプローチしていきたい。

## 2. 関連する先行研究のまとめと問題へのアプローチ

### 2-1. 「感じがする」の前接要素に関する先行研究

「感じがする」が名詞につく場合の接続形式に3種類あることを述べたが、これらの接続形式が文体や、あるいは話し手（書き手）の年代によって使い分けられる可能性を示唆する先行研究がある。残念ながら、ノ接続とナ接続の違いや、ダの省略については言及されていないが、引用形式と様態形式が文体や書かれた年代によって現れ方が異なることを主張する、それらの研究についてここで概観し、本稿の問題への示唆を得たい。

藏本（2016）では、「感じがする」は様態形式よりも引用形式を前接要素としやすく、特にくだけた文体では様態形式も引用形式も介さないことが多いと指摘されている。また、くだけた文体では、単なる引用よりも、「いかにも〈N〉のような」という典型的な特徴を切り出す用法としての「N+って」が多く用いられる特徴があると藏本（2018、p.462）で述べられている。

藏本（2016、2018）で「特にくだけた文体」のデータとして用いられたのは、Twitterの実例300例である。次にくだけた文体とされているのが、Yahoo! ブログ、Yahoo! 知恵袋の実例300例であり、最も改まった文体として『BCCWJ』の2000年代に刊行された雑誌・書籍の実例300例である。確かにこの3つを比べると、Twitterの実例が最もくだけた文体であることは納得できる。しかし、「N+って」以外にも「N+な感じがする」のナ接続が使われた可能性があると考えられるが、それについての言及はない。また、「N+ダ+トイウ感じがする」におけるダの省略についても、Twitterで「N+って」の用法が多いと指摘されているが、「Nダトイウ感じがする」と「Nトイウ感じがする」の文体による数量的比較は行われていない。

また、藏本（2018）では、青空文庫を用いて、明治期の文学作品の中に現れる「感じがする」を60例、『太陽コーパス（国立国語研究所2005）』を用いて、明治大正の雑誌に現れるものを43例、『BCCWJ』の「出版・書籍」のうち2000年代の現代文学作品に現れるものを155例、2000年代の「出版・雑誌」に現れるもの73例、Yahoo! ブログ、Yahoo! 知恵袋から抽出されるもの300例、Twitterの実例300例を比べて、「感じがする」の前節要素の通時的分析を行っている。その結果、明治期では、前接する形式がほとんど「ヨウナ」であり、主に動詞に接続していたという。そして、現代になると、くだけた文体ほど、様態形式も引用形式も介さない用例が増えると指摘されている。また、現代では、名詞を前接要素として引用形式を介する用例が増加し、その要因は「って」という形式が典型的な特徴の切り出しという機能を持つに至ったためだと分析されている。藏本（2018、p.463）によると、明治期では引用形式も様態形式も比況の意味を表していたのだという。明治期から現代を比べて、「N+って」の用法が増えているのは常識的に納得できる。しかし、ナ接続も現代になってからの新しい用法であると推測されるが言及はない。また、藏本（2016、2018）では、「N+だ+って」と「N+って」を区別していないため、「N+って」が増えたのか、「N+だ+って」も同時に増えているのか、明らかではない。藏本（2016、2018）の指摘は、「感じがする」の前接要素の文体による違い、あるいは通時的な変化を大まかにとらえることには成功しているが、本稿が関心を持つ、より現代日本語に特化した問題については、課題を残している。

次節では、「感じがする」に前接する形式としての考察ではないものの、「N1 ナ N2」のN1の性質について考察している先行研究や、引用句内に「だ」が現れる場合と現れない場合の意味の違いを考察している先行研究を概観し、本研究の問題にアプローチしたい。

## 2-2. 「N1 ナ N2」についての先行研究

村木 (2005) では、「神戸な人」という言い方について、「神戸の人」との違いを次のように述べている。すなわち、「神戸の人」は「神戸で生まれた人」「神戸に住んでいる人」を表すのに対して、「神戸な人」は「神戸のようなおしゃれな、センスのいい人」を意味するという。このことは、形態素「な」が前接する名詞の実体面を背景化し、その実体を持つ属性面を前面に出す役割を果たすためだと村木 (2005, pp.404-407) で考察されている。また、村木 (2005) は、この種の「N1 な N2」の「N2」に「感じ」「気分」「気」「感覚」といった単語が来ることが多いことを指摘し、これらが述語用法に傾斜するとも指摘している。つまり、「感じがする」の場合、ひとまとまりで述語を表すためナ接続が起こりやすいと言える。しかし、どのような名詞でも「N+ナ感じがする」が成り立ちうるわけではない。おそらく形容詞にシフトしやすい性質を持った名詞においてナ接続が起こるのだと考えられるが、これについて村木 (2005, p.414) は『「な」が程度性に関与し、量的な性質を持つ』と興味深い指摘をしている。このことから、程度の高低、量の大小などに関する属性を持つ名詞がナ接続を起こしやすいと推測される。本稿ではこのことを4節で検証し、母語話者に対する調査によって明らかにしたい。

### 2-3. 引用句内の「だ」の省略に関する先行研究

金城 (2015) では、引用句内の「だ」の省略が任意の現象ではないことを明らかにするとともに、引用句内の「だ」が潜在化される理由を、次のように考察している。すなわち、「だ」の顕在化により命題が完成すると、話し手 (書き手) の命題に対する断定判断が強く表されることになるため、それを避けようとして「だ」を省略するのだという。いわば、話し手 (書き手) は、「命題としての形式を整えないこと」によって、すなわち「だ」の潜在化によって illocutionary force (発話の力) を軽減させようとしているのだと金城 (2015, pp.28-29) で主張されている。その証拠として、金城 (2015, p.29) では、自発形の「～ものと思われる」の「だ」の潜在率

の高さを挙げている。Yahoo! 知恵袋データにおいて、「だ」が顕在化した「～ものだと思われる」の実例は潜在化した実例の17分の1の数に留まるという。「と思われる」という発言を緩和する表現と「だ」の潜在化が結びつきやすいことは、上述の語用論的誘因が関係するとされている。

以上の金城（2015）の発話の力の軽減という考察は、「だ」が持つ「話し手の判断・断定を取り立てて明示するというモダリティ的特質」（荘司、1992）、「強い感情性、語気の強さ」（三枝、2001）、「威圧感」（李、2011）といった、以前から指摘されている「だ」の特性と関わりと考えられ、説得的な主張である。「N+ダトイウ感じがする」が現代日本語のコーパスであまり見られないのは、そもそも「感じがする」が持つ「印象を述べる。感じたことを述べる」（坂本、1996、p.44）という意味と「だ」の持つ強い断定というモダリティ性が合わないためだと考えられる。それでも用例が皆無であるわけではない。では、「だ」が現れる場合はどのような場合かという疑問が残る。次節で「N+トイウ感じがする」と「N+ダトイウ感じがする」のコーパスにおける実例を比較して、意味の違いを明らかにしたい。

### 3. コーパス実例調査

#### 3-1. 調査の目的

ここまでの議論を整理して、本稿がコーパス実例調査から、明らかにしたい点を2点にまとめたい。第一は、藏本（2016、2018）で言及がなかった、ナ接続とノ接続の文体的異なりについて調べたい。すなわち、くだけた文体で「N+ノ感じがする（ノ接続）」と「N+ナ感じがする（ナ接続）」はどちらが多く見られるか、その比較によって、文体とナ接続の選択に何らかの関係性が見られるか、明らかにしたい。第二に、藏本（2016、2018）では区別されていなかった「N+ダトイウ感じがする」における「ダ」の顕在化と潜在化による意味の違いは、金城（2015）で考察されているような、命題の未完成による発話の力の軽減といった語用論的機能と本当に結びつ

いているのか、「ダ」の顕在化された文と潜在化された文の意味と語用論的機能の違いを考察する。

### 3-2. 対象となるデータ

『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』の全データから、検索アプリケーション「中納言 2.4.5」を使って「感じがする」の実例を採集し、手作業で「Nノ感じがする」「Nナ感じがする」「Nダトイウ感じがする」「Nトイウ感じがする」「Nノヨウナ感じがする」の実例を抽出した。データの採集作業は、2020年3月23日に次の手順で行われた。検索条件として「キー：語彙素が『感じ』、キーから1語：語彙素が『が』、キーから2語：語彙素が『為る』」を指定し、前後文脈の語数を100として、「中納言 2.4.5」を用いて検索をかけた。そうして得られた1911件のデータの中から手作業で、上述の5つのタイプの名詞に接続する「感じがする」を選別した。その結果、「Nノ感じがする」が25件、「Nナ感じがする」が15件、「Nダトイウ感じがする」が6件、「Nトイウ感じがする」137件、「Nノヨウナ感じがする」が69件、合計252件が抽出された。

表1 BCCWJにおけるデータ分類

接続形式による分類	件数	割合
Nノ感じがする	25	9.9%
Nナ感じがする	15	5.9%
Nダトイウ感じがする	6	2.4%
Nトイウ感じがする	137	54.4%
Nノヨウナ感じがする	69	27.4%
合計	252	100%

また、文体の比較のために、Twitter (<https://twitter.com>) の「高度な検索」を用いて、「次のキーワード全体を含む」を指定し、「感じがする」「感じがしない」「感じがして」「感じがした」「感じがしなかった」を検索ワードにデータの採集を行ない、目視で名詞に接続するもののみを抽出し



た。そのようにして抽出された248件のデータの中から手作業で上述の5つの接続形式に分類した。データの抽出と分類作業は、2020年5月25日と5月31日に行われた。その結果、「Nノ感じがする」が13件、「Nナ感じがする」が31件、「Nダトイウ感じがする」が2件、「Nトイウ感じがする」が190件、「Nノヨウナ感じがする」が12件抽出された。

表2 Twitterにおけるデータ分類

接続形式による分類	件数	割合
Nノ感じがする	13	5.2%
Nナ感じがする	31	12.5%
Nダトイウ感じがする	2	0.8%
Nトイウ感じがする	190	76.6%
Nノヨウナ感じがする	12	4.9%
合計	248	100%

「Nトイウ感じがする」の「トイウ」のバリエーションでは、「Nって」が168件で89.5%を占め、残りは「Nという」が17件、「Nて」「Nといった」「Nっていう」「Nていう」がそれぞれ1件ずつであった。「Nダトイウ感じがする」の2件は、「Nだって」と「Nだという」であった。「Nって」という形式がTwitterでの実例の大部分を占めることから、藏本(2018)では、「Nって」が典型的な特徴を切り出す用法としてくださった文体で多く用いられるようになったと結論づけた。しかし、本稿では数は少ないものの、その他の形式の割合の違いに注目してみたい。すなわち、『BCCWJ』のデータと比べると、『Twitter』では、「Nトイウ感じがする」は20%以上多いが、「Nダトイウ感じがする」は3分の1の割合しかない。すなわち、くださった文体になると、「Nトイウ」が増えると同時に、ダの省略も増えると考えられる。ただ、件数が少ないため、文体との関係性を結論づけることはできない。それよりも、ダが省略されない例と省略される例を比較することによって、意味の違いを検討したい。また、『BCCWJ』と『Twitter』を比べると、「Nノ感じがする」と「Nナ感じがする」の割

合が逆転している。『BCCWJ』ではノ接続のほうが多かったのに対して、『Twitter』ではナ接続の方が多くなっている。ただこれもまた件数があまりに少ないので、くだけた文体でナ接続が多くなるといった一般化が可能であるのか、断定できない。以上の問題は、次節以降で実例分析と母語話者に対する文の選好性調査によって検証することとしたい。

#### 4. 「N ダトイウ感じがする」の実例分析

「N ダトイウ感じがする」と「N トイウ感じがする」の『BCCWJ』の実例を観察していると、ダが省略される文では、引用句の部分が一語文、すなわち引用部分が一つの名詞からなるものが多いことに気づく。たとえば、(5)では、「あまり〈病気〉って感じがしない」、(6)では、「〈テレビで見ていると〉〈別世界〉って感じがします」と、名詞一つで引用句を形成している。

- (5) 「ときどきおかしなことを考えるの」アキは自分一人の思いに浸るようにつづけた。「わたしは本当に病気なのかしらって。たしかに病気なんだけど、寝ているあいだも朔ちゃんのことを考えて、いつも一緒にいるような気がするから、あまり病気って感じがしないの」ほくは奥歯で感情を噛み殺した。「このあいだまでご飯が食べられないって、泣き言ばかり言ってたのにな」「ほんとね」彼女は小さく笑って、「いまはとでもへんな気持ち。病気のことで頭がいっぱいなのに、それについて筋道だって考えられない。

(OB6X\_00067、書籍『世界の中心で、愛をさけぶ』小学館、2001年)

- (6) そんな豪華な生活って ほんとにあるの？ と、思う時があります。羨ましい気持ちやなんだかうとうしいやらいろいろ複雑な気持ちです。そういいながら結構見えますが 皆さんはどう見えますか？ また、ご近所や知り合いの方にほんとにあんなすごいお金持ちがいる方セレブぶりを教えてください。テレビで見ていると別世界って感じがしま

すけど、都内とかにいとあんなのはごろごろといますよ。銀座や新宿とかで買い物していても百万、200万もするものを惜しげもなく買っていたり1億もする車に乗ってる人など行く度に見ます。

〈OC01\_04712、Yahoo!知恵袋、2005年〉

一方、ダが省略されない文では、引用句が二語文以上になっている。(7)では、「〈大体きついことは、増える一方だ〉という感じがして」、(8)では、「むしろ〈これは遺言だ〉という感じがします」のように、引用句が二語以上の文からなる。

(7) ただ要するに、いつだって状態としては不愉快ではないけど、不愉快な場面とかきついこととか、そういうことだったら、それはあんまり楽なことじゃなくて、これはメタフィジカルに、こんなきつい状態が続いたら、そんなに生きちゃいられないよというふうに、若い時には思っていましたけど、それは大嘘で、大体きついことは、増える一方だという感じがしてしょうがないですね。年くうと増える一方だと思います。 〈LBa4\_00019、書籍『遊びと精神医学』創元社、1986年〉

(8) 「我々はエマワの旅びとたちのやうに我々の心を燃え上らせるクリストを求めずにはゐられないのであらう。」これを書き終わった後死の床につくわけですから、「心を燃え上らせる」と言っただって、現実の芥川は死ぬるわけですから、むしろこれは遺言だという感じがします。す。自分の後に続く連中は、本当の文学を目指していくならば、自分たちの「心を燃え上らせるクリスト」をいつも心の中にもって、本当の文学、新しい文学を生み出してくれという。

〈LBg9\_00216、書籍『漱石・芥川・太宰』朝文社、1992年〉

この傾向は、『Twitter』の実例では顕著であり、「Nって」の実例のほとんどは一語文になっている。ダが省略されていない(9)では、「〈これが夏だ〉という感じがして」と二語文からなるのに対して、ダが省略され

ている (10) では、「なんか〈夏〉って感じがする」と引用句が名詞一語からなっている。

- (9) そういえば、久々に外出したんで、夜もすがら骨董店に行って、  
気になってたバナナクリームソーダをいただいた。なんか、これが夏だ  
という感じがして最高だったね。美味しかった～

〈Twitter、2020年5月17日〉

- (10) プリズムを聞いてます。なんか夏って感じがする君がくれた夏  
花火夏ソング目が笑っている笑顔 　　〈Twitter、2020年5月24日〉

このことが何を意味しているかを考える上で、一語文の意味・機能に関する、佐藤（2009、p.230、傍点は筆者による）の次の記述が大いに示唆を与える。すなわち「この発話は（一語文からなる発話）は、場面と直接結びついていて、話し手は、話の時点において、対象の存在を感性的な経験によってとらえ、それを聞き手に再現的に伝える」というものである。たとえば、(10)において、話し手は「プリズム」という曲を聞いて、「夏」を感性的に経験し、その時の経験を聞き手に再現して見せているかのように語っているのである。一方、(9)の「これが夏だという感じがして」はもっと整理された理性的な述べ方であるように思われる。Twitterの実例を見ると、話し手自らの感覚を読み手と共有しようとする投稿が多いように感じられる。このようなTwitterの特徴も手伝って、「Nって」の使用が多くなるのではないかと考えられる。

- (11) 背景と服が相まってすごい“ゲーム”って感じがする!!! と大  
興奮してきた 　　〈Twitter、2020年5月24日〉

- (12) パッケージこういうのを期待してたんだけど普通のやつだったわ  
このラムネねー、うん。めっちゃ甘い。  
甘すぎる。練乳ドバーって感じがする

〈Twitter、2020年5月24日〉

(13) 1枚目は大人っぽくてお兄さんって感じがするかっていい俺でしょ??

2枚目は無邪気な子供っぽさが出ているかわいい俺でしょ?????

つまり俺ってかっていいしかわいいんだよね(暴論)

〈Twitter、2020年5月23日〉

以上で述べたように、「ダ」が出現するか否かは前節するNの種類といった単語レベルで起こるのではなく、あくまで文レベルの感嘆のモダリティが関わっていることがわかった。すなわち、対象を感性的にとらえる一語文はダが省略されやすく、二語文以上の理性的な述べ方はダが省略されないという予測が成り立つ。もしこの予測が正しければ、感嘆詞や感嘆符を伴う一語文の引用句を伴う場合は、ダが省略されやすいはずである。すなわち、(14)のような文ではダが省略されやすく、(15)のような文ではダが省略されにくいことが確認されれば、上述の予想が実証される。

- (14) a. わあ、すごい輝き！高級品 { $\phi$ /だ} という感じがする。  
b. ひえ～！ 魚を生きたまま食べるなんて残酷 { $\phi$ /だ} という感じがする。  
c. あ～あ、残念だな～！ 高校野球が中止になるなんて、夏 { $\phi$ /だ} という感じがしないよ。
- (15) a. この輝きを見ると、これは相当な高級品 { $\phi$ /だ} という感じがする。  
b. 欧米人から見たら、魚を生きたまま食べる日本の食文化は残酷 { $\phi$ /だ} という感じがするだろう。  
c. 高校球児の夢の舞台である高校野球が中止になると、今年の8月は日本の夏 { $\phi$ /だ} という感じがしないように思う。

このダの省略と文の意味の関係については、次節で報告する調査によって検証していきたい。

## 5. 母語話者に対する文の選好性調査

### 5-1. 「Nノ」「Nナ」「Nって」の現れ方と話者の年代

まず、ノ接続とナ接続の現れ方が調査回答者の年代によって違うかどうか、また、前節する名詞の性質の違いによって変わるかどうかの検証を行う。調査は2020年4月6日から4月19日までの2週間をかけて、WEB上のアンケートフォームを使って回答を収集した。その結果、10代が12名、20代が27名、30代が40名、40代が49名、50代が19名、60代が4名回答を寄せていただき、合計で151名の回答が得られ、この151名のデータを分析対象とした。調査文は(16)(17)(18)に示すような文を全部で24文作成し、それぞれA(ノ接続)、B(ナ接続)、C(Nって)を選択肢とし、その他の解答欄を設けた。(16)は程度性のある名詞の例で、この種の名詞を8文、すべて「〇〇め」の形態の名詞で統一した。(17)は普通名詞の例で、同種の名詞を使った文が8文、(18)は固有名詞の例で、同種の名詞を使った文が8文提示された。調査協力者は、「自分ならどう言うか」を考えて、文を選択するように指示された。

- (16) 牛丼の特盛を注文したんだけど、出てきたのは( )。肉がちよっぴりでご飯が見えてました。〔程度性名詞：少なめ〕
- A. かなり少なめの感じがしました
  - B. かなり少なめな感じがしました
  - C. かなり少なめって感じがしました
- (17) お金がないとき、よくこの定食屋に通ったから、店の人も仲良くなって、もうこの定食屋は( )。〔普通名詞：自分の家〕
- A. 自分の家の感じがするんです
  - B. 自分の家な感じがするんです
  - C. 自分の家って感じがするんです
- (18) 今回の大河ドラマは、子役の演技が光ってるね。あの子役の子、( )。才能にあふれてて。〔固有名詞：えなりかずき〕

- A. えなりかずきの感じがしたよ
- B. えなりかずきな感じがしたよ
- C. えなりかずきって感じがしたよ

特筆すべき結果としては、(17) のような程度性の名詞の8文中5文において、年代が若くなるほど、ナ接続の回答を選択する人の割合が高くなる現象が観察されたことである。60代と10代は母数が少ないので除いて考えると、たとえば(17)では、下の図1に示すように、50代では47.4%、40代では73.5%、30代では77.5%、20代では77.8%と年代が若くなるにつれ、ナ接続が増えている。このような選択傾向は、普通名詞、固有名詞では見られなかった。普通名詞では、8文中4文で「Nって」の回答がすべての年代で多かったが、後の4文では名詞の意味や文の意味によって回答が分かれた。また、年代による回答傾向の偏りは見られなかった。固有名詞でも8文中6文で「Nって」の回答が多かったが、その他の回答も20%以上と多くなった年代もあり、回答はばらけていて、年代による偏りは見られなかった。

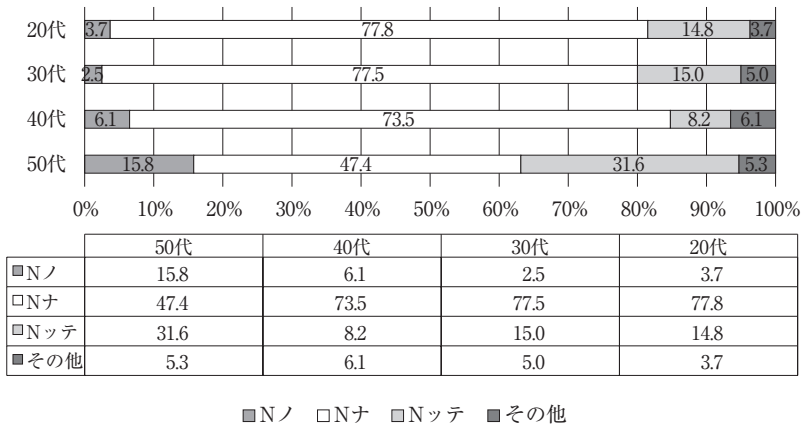


図1 年代別「感じがする」の前接形式

普通名詞で回答に明らかな偏りが見られたのは、次の(19)の文である。すべての年代で70%以上がCの「Nって」を選んでいる。これこそ藏本(2018, p.462)が指摘する「典型的な特徴を切り出す」用例であろう。

- (19) 今日は蒸し暑いね。こんな時はビールと枝豆が一番だね。  
(            ), 自分は日本人だなと改めて感じるね。
- A. これぞ日本の夏の感じがして  
B. これぞ日本の夏な感じがして  
C. これぞ日本の夏って感じがして

## 5-2. ダの省略と感嘆のモダリティ

4節で述べたように、「Nトイウ感じがする」は、感性的にとらえた対象をそのまま聞き手に再現して見せる文であり、「Nダトイウ感じがする」は、理性的に対象をとらえて話者の判断として聞き手に示す文であるという違いがあると考えられる。この違いは、(20)のような感嘆詞、感嘆符を伴う一語文の引用句をとる場合と(21)のような二語文以上の引用句をとる場合に顕著に現れると考え、日本語話者に対する文の選好性調査によって確かめた。すなわち、(20)のような文ではダが現れない(20a)や(20c)が好まれ、(21)のような文ではダが現れる(21b)や(21d)が好まれると予想した。

- (20) あー！ アベノマスクが届いてる！
- a. な、なんだか貴重品という感じがして、開けらんねえ。  
b. な、なんだか貴重品だという感じがして、開けらんねえ。  
c. な、なんだか貴重品って感じがして、開けらんねえ。  
d. な、なんだか貴重品だって感じがして、開けらんねえ。
- (21) アベノマスクが今朝届いたが、長く待っていたせいか
- a. ただのマスクが貴重品という感じがして、すぐに開封できなかった。



- b. ただのマスクが貴重品だという感じがして、すぐに開封できなかった。
- c. ただのマスクが貴重品って感じがして、すぐに開封できなかった。
- d. ただのマスクが貴重品だって感じがして、すぐに開封できなかった。

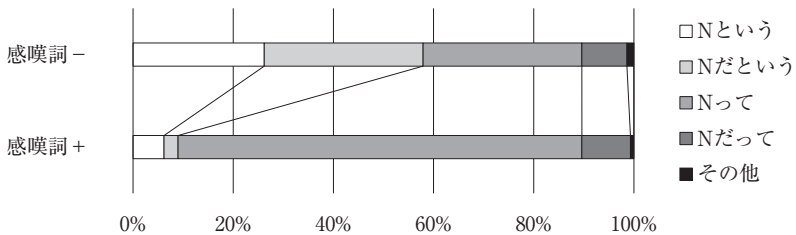


図2 感嘆詞の有無と「ダ」の出現

結果は予想のとおり、感嘆詞、感嘆符を伴う一語文の引用句をとる場合は、「Nって」が圧倒的に高い割合で選ばれ、感嘆詞、感嘆符を伴わない二語文の引用句をとる場合は同じ命題内容を表しているにもかかわらず「Nだという」が選ばれる割合が前者に比べて増える。ただ、「Nだって」が選ばれる割合は両者でほとんど差がなかった。これの他に、同様に感嘆のモダリティ以外には違いがない2組の文を7セット調査に用いたが、いずれも感嘆のモダリティを帯びた文では「Nだという」の割合が低くなり、感嘆のモダリティのない文では「ダ」が現れたことから、感嘆のモダリティと「ダ」の使用は相性が悪く、やはり断定的に述べる場合や、冷静な話し手の判断を述べる場合に、「ダ」が用いられることがわかる。

## 6. 「N+感じがする」の接続形式と意味に関する考察

「N+感じがする」の接続形式のうち、本稿では「Nダトイウ感じがする」と「Nトイウ感じがする」の違い、「Nノ感じがする」と「Nナ感じがする」

の違いについて、コーパス調査、コーパス実例分析、ならびに母語話者に対する文の選好性調査を通して検討した。

まず、「Nノ感じがする」と「Nナ感じがする」について考察を行いたい。5-1節で報告した調査から言えることは、程度性を表すNの場合、年代が若くなるほど、ナ接続の使用が増える傾向にあるということである。まず、「程度性」は形容詞の一つの性質であり、「程度性」を持つ名詞で「Nナ感じがする」の使用が多かったことは、「ナ」が程度性という属性面を前面に出す機能を持つと村木（2005）で指摘されていることと合致する。しかし、「形容詞にシフトしやすい性質を持った名詞においてナ接続が起こりやすい」のか、「ナ接続によって名詞が意味的に形容詞にシフトしやすいのか」は、まだわからない。ただ、今回の調査では、同じ名詞を使っても、「これぞ日本の夏って感じがした」のように、確信をもって述べたいときにはナ接続が選ばれにくかった。ナ接続が選ばれやすいものと選ばれにくいものがあったこと、また、「高級品の感じがする」と「高級品な感じがする」を比べると、後者のほうが「高級品」に属する物の中でも比較的安い物から本当に高い物まで幅があるうちの「どちらかと言うと高級品な感じ」というような断定を避ける意味が感じられる。このような意味の違いは非常に微妙でどこまで意識的に使い分けられているかわからないが、前接するNに程度の幅を持たせ、自分の判断をほかす機能があると感じられる。また、年代が若くなるほどナ接続の使用が増えたこと、そして、特に40代と50代の使用割合の間に差が開きやすいことから、ナ接続はおそらくここ20年くらいの間に使われ始めた新しい接続形式であると推測される。

次に、「Nダトイウ感じがする」と「Nトイウ感じがする」の違いについて考察を行いたい。5-2節で報告した調査によると、たとえば、「な、なんだか貴重品って感じがして」のように「うわあ、貴重品！」といった感嘆のモダリティを伴う、一語文の場合には「だ」が現れにくく、「ただのマスクが貴重品だ」という感じがして」のように理性的に印象を述べる場合で、且つ多くの場合二語以上の文において「だ」が現れる傾向が捉えら

れた。これは、2-3節で引用した金城（2015）で指摘されているように、「だ」によって命題が完成し、話し手の命題に対する断定判断が強く表されることに関係すると考えられる。藏本（2018）がTwitterに使用が多いと指摘している「なんか夏って感じがする」「すごいゲームって感じがする」といった「典型性」を取り出す用法においても、「だ」が出現しないのは、「典型的な○○」という認識が明確に定まる前の感覚的な印象を再現的に読者に訴えているためだと考えられる。命題を完成させないことで、冷静な判断ではなく、あくまで感覚で捉えた印象として述べていることを演出することによる、ある意味責任回避であり、「言ってみれば○○に近いような」という言葉を探しているかのような表現方法をとることによる断定回避の機能があるのではないかと考えられる。

## 7. まとめと今後の課題

本稿で得られた知見は次の二つにまとめられる。

I. 「N ナ感じがする」は、前接するNに程度性を持たせ、ある程度幅を持った段階の一部であると表現することで、「どちらかという～という程度に感じられる」という「断定回避」の意味を生じる。若年層の話者が特に多く使う傾向にある新しい接続形式で、「N ノ感じがする」よりも断定を回避し、「ほかす」効果があり、その分、くだけた文体で用いられる傾向が強い。

II. 「N ダトイウ感じがする」と「N トイウ感じがする」を比べると、後者のほうが、感嘆のモダリティを帯びている文で多く現れる。特に、「N って」という形式は感嘆のモダリティとなじみやすく、感性でとらえた対象をそのまま読み手に再現して示す表現方法であり、冷静な意見表明よりも感覚的な印象の表出が好まれるTwitterで、「N って」が多用されるのはそのためだと考えられる。

本稿で得られた知見は、これまで先行研究で指摘されてきた、「ダ」の断定性や「N1 ナ N2」のN1の程度性という属性を取り出す機能が「N1

ナ N2」にあるといった観察について確証を得るものである。つまり、本稿は、「N + 感じがする」という文型を詳細に分析することを通して、「ダ」や「ナ」の機能を検証することができたという意味で文法理論にささやかながら貢献したと言える。

ただし、本稿では「トイウ」のバリエーションについては、踏み込んだ検討を行っておらず、「N という」と「N って」の違いは、今後の検討が望まれる。また、「N のような感じがする」などの様態形式については、今回紙面の関係で詳しく分析できなかった。Twitter では、引用形式で「典型性」を取り出す用法が圧倒的に多く、様態形式で「類似性」を表す用法は使われないのはなぜかについて、先行研究でも明確な答えは得られていない問題であるので、今後詳細な分析が待たれる。

現代日本語における接続形式のバリエーションが、世代や、文体、断定回避といった表現効果によって使い分けられる点は改めて確認されたとと言えるが、「N + 感じがする」について観察されたこれらの現象が、印象を述べる表現「N + 気がする」や傾向を述べる表現「N + 傾向がある」「N + ところがある」などにどこまで一般化できるかの検証は、理論的發展に欠かすことができない、今後に残された大きな課題である。

#### 注

- 1) 本稿で示す例文は、断りがない場合は、筆者の作例である。例文の前に示す「??」のマークは、日本語としてかなり不自然であるという文法性判断を示している。「?」はやや不自然であることを、「\*」は非文法的であることを示している。この判断は、基本的に筆者自身の判断であるが、補助的に2名以上の日本語母語話者に判断が同じであることを確認している。
- 2) 検索方法や例文の抽出方法は、第3章で詳しく述べている。
- 3) これ以降、例文の下線はすべて筆者による。

#### 参考文献

- 北原保雄 (2010) 『明鏡国語辞典 第2版』大修館書店。  
金城克哉 (2012) 「コーパスに基づく引用句内のコピュラ (『だ』) の顕在と潜在に関する研究」『留学生教育：琉球大学留学生センター紀要』第9号、pp.21-

33.

藏本真由 (2016) 「文体差による『気がする』『感じがする』の前接要素の現れ方」  
『千里山文学論集』第95号、pp.1-22.

藏本真由 (2018) 「『感じがする』の前接要素と形態的特徴」『國文學』第102巻、  
pp.478-462.

三枝令子 (2001) 「『だ』が現れるとき」『一橋大学留学生センター紀要』第4号、  
pp.3-17.

坂本正 (1996) 『学習者の発想による日本語表現文型例文集—初級後半から中級  
にかけて—』凡人社.

佐藤里美 (2009) 「一語的な名詞文の意味・機能」『日本東洋文化論集』第15号、  
pp.211-241.

荘司育子 (1992) 「疑問文の成立に関する一考察—『デス』という形式をめぐる—」  
『日本語日本文化研究』第2号、pp.39-56.

林四郎 (監修)、篠崎晃一・相澤正夫・大島資生 (編著) 『例解新国語辞典第9  
版』三省堂.

村木新次郎 (2005) 「『神戸な人』という言い方とその周辺」、中村明・野村雅昭・  
佐久間まゆみ・小宮千鶴子 (編) 『表現と文体』、pp.404-415、明治書院.

山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄・上野善道・井島正博・笹原  
宏之 (編) (2017) 『新明解国語辞典 第7版 特装青版』三省堂.

李明熙 (2011) 「話し言葉における名詞文の文末形式の使い分け」『日本語／日本  
語教育研究』第2号.

#### 調査資料 (コーパス)

国立国語研究所 『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』コーパス検索ア  
プリケーション「中納言 2.4.5」[https://pj.ninjal.ac.jp/corpus\\_center/bccwj/](https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/)  
「Twitter」<https://twitter.com/>